

リング情報いかに提供

観光客向けデジタルマップ仕組みづくり

黒石



デジタルマップによる情報発信について調査結果と考察が示された成果報告会

市と 調査研究の成果報告

黒石市と弘前大学は20日、リングや関連商品を販売する市内の店舗の所在地と情報をデジタルマップで観光客向けに提供する仕組みづくりに関する調査研究の成果を報告した。人文社会科学部の講義で携わった学生が現地調査の結果と考察を示し、研究を担当する同学部の松井歩助教は「単なる産直マップではなく、幅広い（分野にまたがる）黒石のリングマップを作ることで、リングをキーワードとした地域資源の総合的な発信が可能になるのでは」と期待を寄せた。

（木村歩）

共同研究は市と同大の包括連携協定に基づき、同学部の講義「地域アクション

リサーチ／地域協働実習」で進められた。20日の成果報告会は市産業会館で開催。今後再検討を経て、10月に最終的な成果物をまとめる。

学生は四つの班で検討内容を分担。インターネット上の地図「グーグルマップ」のマイマップ機能などデジタルマップを活用した情報発信は、観光客や一般市民からも参加できる上、紙の地図より情報更新が簡便で「気軽にまちづくりに貢献できる」とした。

1日に市内5事業所で聞き取り調査を行った結果と

して、「特産品の提供可能時期、産直対応農家の要望などに関する情報を表示した方がよい」「こけしに関する情報発信は、伝統か（リングをモチーフにした）創作かに限定せず、双方を行き来できる形が求められる」といった考察を示した。

リングを使った菓子については「新規商品の開発よりも既存商品の情報が届くようにする」などの選択肢を並べた。

松井助教はまとめで「いかに正確な情報を担保し、利用者の多様性を考慮するか、マップからさらにどの

ような情報に接続すれば効果的かなどは、さらに検討の余地がある」と課題も挙げた。

高樋憲市長と同大の橋本恭男社会連携担当理事は「皆さんが（調査で）体感したことが、マップを通じて実際に来た方々に伝わればいい。リングを一つの入り口として、いろいろ楽しいと思ってもらえればリゾートにもつながる」などと講評した。

陸奥新報

2023年7月26日掲載

※陸奥新報社より許可を得て掲載しています。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。